

総務委員会 県内調査活動状況

1 調査日 令和2年11月4日(水)

2 出席委員(10名)

委員長 猪股 尚彦

副委員長 杉原 清仁

委員 皆川 巖 白壁 賢一 山田 一功 水岸 富美男

卯月 政人 志村 直毅 飯島 修 藤本 好彦

3 調査先及び調査内容

(1)【消防防災航空隊】

○調査内容(主な質疑)

問) 場外離着陸場等については、これで100%大丈夫なのか。例えば、場所を変更すると交渉に難航する、もっといい場所を探している等あるのか。

答) 場外離着陸場については、現状27市町村中25市町村に設置している。また、これを補完するため、緊急離着陸場を25市町村に105カ所設置している。これらを有機的に活用することにより、緊急時に問題なく対応できるのではないかと考えている。

問) 出動の判断について、原則8時30分から17時15分まで、緊急時は日の出から日没までとあるが、火災・災害時、あるいは山岳遭難については時間が読めないため、運航時間外も想定される。要請内容もあろうかとは思いますが、出動の判断基準はどのように考えているか。

答) 基本的に要請があった折には出動を行うと考えている。「あかふじ」については有視界飛行になるため、天気が悪い場合や、月明かりがなく真っ暗な夜等で地上の確認ができない場合は、残念ながら運航しないという判断もあり得る。

問) 原則要請があれば受け入れるということだが、出動の判断の責任は誰が負うのか。

答) 運航に関しては、消防保安課長が職責上対応することになっているが、現実的には、航空隊にいる職員と連絡を取り合いながら、適切な運航ができるよう対応している。また、機長の経験や知識に基づいた意見も判断材料としたうえで、最終的にフライトを行うかどうかを決定している。

問) 消防防災航空隊の隊員は、隊長や副隊長を初め8名いるのだが、その中に女性隊員はいるのか。

答) 隊の中に女性職員はいるが、隊員ということでは女性の職員はまだ出ていない。

問) 遭難者や被害者が女性の場合、女性隊員のほうが接し易いと思うのだが、女性隊員がいない理由は何かあるのか。

答) 航空隊の隊員は、10消防本部から派遣された8名で構成しているが、女性隊員がいない一つの原因として、各消防本部において女性吏員がかなり少ないということがあげられる。そのため、各消防本部と協力して、国の事業などを活用しながら、女性吏員の確保に向けた取り組みを進めている。

問) ヘリコプターは計器飛行ができるよう整備されているが、本県では、運航を委託している業者において夜間飛行用のライセンスを持っていないため、暗くなった日没以降に飛ぶことができない。協定を結んでいる他県は夜間に飛ぶことができるので、不公平な協定となっており、今後、必要な時に他県から助けてもらえなくなるかもしれない。費用対効果も分かるが、その点についてよく考えていただきたい。

答) いただいた御意見について、隊と共有したい。



※説明、質疑の後、消防防災ヘリ「あかふじ」の視察を行った。

(2)【意見交換会】

①出席者 甲斐敷島梅の里クラインガルテン施設利用者の方々

②内容 「やまなし暮らしの魅力について」

○主な意見

委員) 皆さんの中で、お互いに住民同士が交流する場、いわゆる自治会のようなものはあるのか。

出席者) 特に自治会という名目のものはない。強いて言えば、イベントが年に何回かあり、そのときに西地区、東地区、北地区の50世帯が一堂に集まるので、そこでコミュニケーションをとれる。特に自治会というのはないのだが、むしろ、つかず離れずという状態がこのよさかなと思う。

委員) そういう組織がなくても、イベントや行事以外で、月に1回とか2カ月に1回とか、定期的に話し合ったり、コミュニケーションをとったりする機会はないのか。

出席者) 特にそういう機会はない。ただ、畑が好きという共通の趣味を持っているので、道で会ったり、クラブハウスに来たり、そういうことでコミュニケーションはとれている。

委員) まずは、ようこそ山梨へ。
きょういらっしゃっている方は、滞在型と日帰り型があるが、滞在型の人たちか。

出席者) 全員滞在型である。

委員) 皆さん、いろいろな理由でこのクラインガルテンへお越しいただいたと思う。このクラインガルテンには、月に最低四、五泊という利用条件があるが、それぞれどのような状況か。

出席者) そのお宅それぞれ違う。
うちの場合は、夫が365日のうち330日ぐらいここにいるため、私が地元から高速バスや電車を使って来ている。他のお宅だと週末だけの方、ずっといらっしゃる方もいる。

出席者) うちの場合は、夫が甲府で仕事をしているため、365日のうちの360日ぐらいは、ここに在住している。私は、親が1人で横浜にいるので、そちらの

ほうに引っ越した。東京にも家があるので、3地域をぐるぐると回っているが、ここに来ると、ほっとするというか、気分転換できる。私は、大体3日ぐらいしかいられないが、なるべく1週間に1回は来て、生活を楽しんでいる。夫のほうは山梨県民のような暮らしをしているが、住民票が置けないので税金を払っていない。

出席者) 今のお二方はレアケースだと思う。普通は月の半分を自宅で、残りをこちらでと、平均的にはそんな感じである。私の場合、昨年、一昨年で見ると、大体120泊、150日ぐらいで、1年の半分ぐらいこちらに来ている。その前後として多い人と少ない人がいる感じだと思う。

それともう一点、きょうこちらに出席しているのは、1年目、5年目、10年目、それと15年目の方である。

出席者) 私は、今14年目で、一番長いほうに属すると思う。

滞在の件については、ここに入居されている方が職を持っているか持っていないかで全然違う。現役で働いている方は、月に二、三回程度、週末に来られる。夏になると野菜の関係で毎週来なければならないが、それでも来られないという方が非常に多い。一方、リタイアされた方は、束縛されるものが何も無いということで、ずっといらっしゃる方が多い。

委員) 皆さんは、地元で友人や知人、親戚の方たちに当然紹介をしていただいていると思うが、私は県議会議員としてこういう制度をもっと広げて、もっと皆さんに楽しんでもらいたいという気持ちがある。これからもライフスタイルを楽しんでいただきたいと思うが、そうはいつでも、いろいろ不便なこともあるかと思う。皆さんそれぞれ年数は違うが、もっとこうしてもらいたいということがあれば教えて欲しい。

出席者) 不便なことといえば、夫は車を運転できるが、私は運転できないため、夫が高速の停留所か駅まで迎えに来てくれるのだが、それができないときには、市のコミュニティバスを利用しようと思っても、週に1回、それも1日に1回のため、それに乗るための電車を探すことから始まる。一度、雪の中をクライנגアルテンまで歩いてきたことがあるが、年齢的に歩いたりすることが難しくなり、時間がかかって大変だった。そのため、もう少し公共交通機関に力を入れていただきたい。

出席者) 今の意見の補足だが、私は千葉県に在住しており、日常1人のときには中央線を使って往復している。竜王駅前に駐車場を借りて、クライנגアルテンから駐車場まで車で行き、電車に乗りかえている。ところが、最近はJRの方針なのか、電車の接続が非常に悪くなっており、甲府駅で三、四十分平気で待たさ

れる。都内から来るときも甲府駅で非常に待たされる。季節のいい時期だったらよいが、寒い時期とか、暑い時期に何もしないで甲府駅のホームで三、四十分待たされるのは非常に苦痛なので改善していただければと思う。

必ずしも車で全て往復できる方ばかりではないので、その点については御一考いただければと思う。

委員) こちらのクライנגルテンに入る前、どこか他の県と比較されたことがあるか。比較された方は、どのような理由で山梨をお選びになったのか教えていただきたい。

出席者) 主人がリタイアしたら、クライングルテンのようなところで余生を過ごしたいという希望を2人とも持っていたため、あちこちに旅行する際に、駅でレンタカーを借り、クライングルテンをよく見てきた。大阪に在住しているので、岐阜県や長野県を中心に七、八つのクライングルテンを見て回った。その中で、こちらが立地や建物等を含めて、いろいろな意味で一番すばらしいと思っている。

山梨に来たのは、子供が東京に転勤し、小さい子もいるので、できるだけ近くにいたいというのが理由である。365日のうちの2カ月ぐらいは大阪に帰るが、あとはほとんどこちらで生活している。山梨県では南アルプス、高根、そして梅の里の3つのクライングルテンを見させていただいたが、梅の里が一番、お買い物とか病院とか、いろいろな意味において立地がよいということ、建物も使いやすいと感じ、こちらにお世話になっている。

出席者) 私は、山が好きだったので、いろんな山に行きたいというのもあり、食事はともかく、リーズナブルで泊まれるところが欲しいと思い、15年ぐらい北杜市にある日帰りの農園で区画を借りていた。そんな中で、こちらと南アルプス市のクライングルテンができたと聞いて両方を見に来て、少し小高くなっていて、お隣や周りとほどよい距離がある点に魅力を感じ、こちらにお世話になることに決めた。

交通事情については、私も夫と一緒に来ることが多く、たまに1人で来たときには、歩くのもいいかなと思い、甲府駅からバスに乗り、片山のバス停でおりに歩くということがあった。歩くことが好きだったのでいいが、やはり年をとってきたことと、雨の日は結構きつかった。行事のときには、近くを通るバスもあるようだが、全部つなげていただけると、ほかの方も梅の里に来て交流できるのかなと思う。

ことは残念だが、本当にこちらではいろいろな行事があって、その中で地域の方と交流できたということは、とてもいいことだった。楽しい、おいしい、美しい5年間だった。

出席者)　　うちは転勤族で、全国あちこちを二、三年で引っ越していたので、リタイア後はゆっくりしたいという気持ちがあった。クラインガルテンは、ちょうど1つ上の世代の方から人気があったというのを新聞で見て関心を持った。大体30カ所ぐらい見て、どこもよかったのだが、ピンと来ないというか、住むというイメージが湧かなかった。そんな中で、ここに来たときに、直観で、ここに来るかもしれないと思った。

縁があって来させてもらったが、いいことがたくさんあり、アクセスがよかったことと、今は通販も盛んで、東京と同じぐらいの速さで商品が届くという面では、田舎というか、地方の差を感じない場所だと思っている。

本当に自然が多いため、山に行くには困らない。八ヶ岳もあるし、南アルプスもある。行きたければ東京の半分の時間で行けるので、そういう意味でも本当に健康になったと思う。

委員)　　去年、東京から道志村に移住してきた方から、都留市で団地を探してほしいという依頼があり、探してあげたことがあった。その理由は、道志村に医療がないということだった。甲斐市は医療が充実しているので、そのような問題はないかと思うが、老後に何か不安なことがあれば教えていただきたい。

出席者)　　移住については、皆さん一度は考えたことがあると思う。移住するに当たっての不安は、車が運転できなくなったら、ここで暮らしていけるのかということである。また、その地域に溶け込めるかという不安が非常に大きい。このクラインガルテンは、みんなよそから入ってきた方ばかりのためいいが、クラインガルテンの外に出たときに、その地域になじめるのかが一番大きな問題である。

委員)　　こちらは滞在型市民農園という触れ込みになっているので、皆さん、農産物を大なり小なりつくっていると思うが、どんなものをつくって、それを販売までつなげているのか伺いたい。また、お世話役の農家がついているようだが、その農家の方とはどのような関係になっているのか教えていただきたい。

出席者)　　私は果物づくりが大好きである。大好きというか、結果的にそうなった。妻が野菜をつくって、私が果物をつくって、孫にブドウ狩りをさせるのが楽しくてやってきた。最初、ブドウを育てるときに、自分では何もわからないので、ネットで調べて、消毒が必要ということがわかり、近くのJAに消毒薬を買いに行った。そうしたら、1本分の消毒薬は売れないから、近くの農家に頼んで分けてもらったほうがよいということだったので、近くのブドウ農家の方をお願いに行った。そうしたら、ブドウは自分たちプロが十、二十年やってもなかなかうまくできないのに、何も知らない素人が急にやると言っても無理だから、やめておきなさいと、最初は全然相手にしてもらえなかった。私の場合

は、孫にブドウ狩りをさせたいだけで、売るつもりは全然ないので、そこを何とかとお願いしたら、よしわかったと。孫がブドウ狩りできるように手伝ってやると言って、自分のブドウ畑の作業が終わってから、私の小さなブドウの木1本分のために、わざわざラインガルテンまで来て作業してくれた。最初のころは、私もありがとうございましたと言ってお礼を言っていたが、これはもうお礼だけじゃ済まないなということで、お手伝いしますと。そのブドウ農家の畑に行って、1年間の作業を全部教えていただいたが、とんでもなく大変なものだなということが、そこで初めてわかった。非常に親切な方で、我が家の世話役農家のような雰囲気、非常に仲よくしてくれて、家へ来て飯を食えとか、風呂へ入れとか。ちょっと遠慮させていただいたが、パンツまで貸してくれようとした。結果的には、そんなつき合いもさせていただいて非常によかった。

委員) リタイア後にこのような環境で畑を少しやりながら、ゆっくり暮らしたいという目的で来られている場合は、出荷や販売をするためでなく、ここで過ごすことが一番の目的になっていると思う。

先ほど、少し不満もあるというお話があったが、車の運転ができる方は、車でここに来て滞在し、必要があれば車で買い物や医療サービスを受けに行くことができるが、今後、ここで過ごすことが難しくなるときが来るかもしれない。ここは、利用料を払って利用しているが、ここではなく、例えば甲府市や、あるいは、もともとの住まいに戻るということも、将来的にあるのではないかと推察する。そうなったときに、山梨は環境がいいところなんで、今は二拠点、三拠点でこちらに来られているが、将来的に山梨のどこかに住むという気持ちがあるのか。

出席者) 今、私は9年目だが、あと5年こちらでお世話になると79歳になる。今、所沢に一軒構えていて、所沢の生活とこちらの生活の2つの日常を味わえるというのは非常に気持ちがいい。ただ、79歳になると、なかなか来ることができなくなる。ここは富士山が見えて魅力はあるが、所沢からも富士山は見える。やはり医療関係等を考えると、いずれは所沢に戻りたい。

山梨に移るということについて、知っている方は韮崎に永住しているが、町内の組合に入れてもらえず、ごみを別の収集場所に持ち込んでいる。そのようなことも、どこかで起こると思う。

委員) 今年度、山梨県デュアルベースタウン研究会というものを立ち上げ、私が住んでいる大月市がモデル地域に選定された。皆さんの中で、大月という地域にどのようなイメージがあるか教えていただきたい。

また、今後二地域居住をふやすため、自治体等に対して何かアドバイスがあったらお聞きしたい。

委員) 補足だが、今その地域は過疎化しているのだが、東京に隣接しており、クラインガルテンだとか、二地域居住や二拠点居住に使っていただき、よければ、そこへ永住していただきたいという淡い希望がある。小さな地域だが、コミュニティもしっかりしているところがあるので、ぜひお願いしたいということを、今やり始めている。そういうことをもっと活用するためにはどうしたらいいかということをお聞きしたい。

出席者) 私は、このクラインガルテンに申し込むときに、できればついに住みかを探せるなら探したいと書いて出した。クラインガルテンは、耕作放棄地を有効に使っているが、私たちが住みたいと思っても、農地法の関係で、畑と土地を手に入れるのは難しい。そうすると借りるしかない。農地法の壁を乗り越えてまで手に入れなくてはいけないなら、年齢的に無理である。

移住については、私も興味があるので、よくテレビで見るのだが、やはり自治体は若い人を求めているのかなと思ってしまう。だから、そろそろ七、八十歳に近い私たちは、どうなのかと思ってしまう。ここに住んでいて、うちの夫も山梨県出身なので、山梨は身近に感じている。ここが終わりになり、都会に帰るしかないとなったら、すごい淋しく感じる。やはり、ここで十何年間も暮らしていると、向こうに住んでいる者にとっては、この生活がすごくいい。

大月のほうにもクラインガルテンがふえればと思っているが、だんだんクラインガルテンの人气がなくなってきたのかなと思っていたところに、コロナによりリモートだのテレワークだのという言葉が出てきて、住みたいという人がふえてきている。都会の人を呼び込むとしたら、今、という感じ。

あとは、暮らしたいと思う人たちにとって、入りやすい環境をつくっていただきたい。

委員) ドイツのクラインガルテンは、戦後の復興のときに食料不足で、食料のために空き地を細かく切ってやってきた。ベルリンあたりの中心に集まった人たちが外へ行かないように、何とか食べさせようと思い、そこを分けた。それを日本人が、これがクラインガルテンだとし、それを二地域居住用に使えないかとなったときに、宅地には向いていなかったの、いわゆる耕作放棄地対策で、基本的には農機具小屋しかつくれなかったものを、農振法を変えてこういったものをつくっていった。ただし、農地なので住所は移せない。こういうところからスタートしているので、本末転倒になっている。ちょっと考え方が二転三転しているうちに、ここは仮の住みかで、たまたまここに来て、最終的に戻ると。我々はまた別の考え方で、せつかくそういう方々が来ていただけるのなら、ぜひ永住してほしい、ついに住みかにしていただきたいと思っている。そこで温度差が出てきている。

国が場当たりにやった政策を、もう一回見直してくれると、こういうとこ

ろを発端に一極集中から地方の活性化につながってくる。

出席者) 行政のほうから考えると、そこを発展させるとなると、やはり若い人。こんな年寄りじゃない。ただ、グリーンツーリズムの思想で、こういうクラインガルテンが設立され、その思想はわかるのだが、いろいろな中の1つとしてクラインガルテンがあると思う。もっと活性化しようとするならば、やはり大月に企業を誘致すること。山梨にどれだけ大きな有名な会社があるか。山中湖のほうにはファナックがある。ああいうものを持ってこない。地方からすると、山梨では甲府市しか知らない。定住となると、どうしようかという話になる。

委員) 1年目、5年目、10年目、15年目ということで、ここの環境がとてもいいということは理解するのだが、ここを離れて、例えば空き家を改築し、あるいは中古土地を購入してそこで生活するといったことに結びつかないのか。ここはすごくいい環境だと思うのだが、そういう考えが出てこないのには何か理由があるのか。

それと、最後に組合長に伺うが、ここを出た方たちのうち、どのくらいが近隣の集落等に住んでいるのか。

出席者) ここに来られた方は、定住という形じゃなくても、もう少し自由で長く借りられるところがないかと考えると思う。うちも今9年目だが、最初の一、二年はあちこち探したが、ここはすごく景色がよく、高速道路からも近いので、ここを見たら、なかなかそういう気にはなれなかった。主人とも話すのだが、ことはコロナがあつて、こちらに古民家でいいところがあつたら住んでもいいかなという気持ちになっている。ただ、普通の家には住みたくない。ここには、畑があつて、古民家ふうの建物がある。この雰囲気味わうと、ちょっと難しいかなと。希望はあつても実現できないのかなと感じる。

トンネルの事故があつたとき、国道20号と、奥多摩経由の山の道と、高速道路を使うなど、大変な経験をした。リタイアしていたので急ぐ必要はなかったのだが、住むとなると、やはり大変だと感じる。以前、富士河口湖町にいる知人の方から、山梨県は盆地の中に医療機関や大きな施設が入っているので、うちのほうからすると不便であるという話を伺ったが、そういう差があるのかなという気がした。

出席者) 私も、5年ほど前に必死になって家を探したが、別の都市には、ここにまきるところがなかった。下においていて、売り家とか借家を探したが、市街地に住むのなら自宅にいるのと大して変わらない。やはり自然があつてのクラインガルテンであり、そういう要素がない中で、ここに住む意味は、ただあちこちに出かけるときの拠点としてしかない。だから、やはりクラインガルテンがここにあるというのが重要だと思う。

委員) 最後に、私のほうから組合長に確認をし、それに答えてもらって時間になる。

きょうのテーマと少しずれるかもしれないが、このクライנגルテンの人気度、また受け入れ態勢についてお答えいただきたい。

出席者) 先の質問にお答えすると、ここは15年ぐらいたつが、ここを出た人は、ざっと計算して200人以上いるのではないかと思う。その中で、今まで山梨県に定住した人は1名。それも甲斐市ではなく富士河口湖町へ移住したと記憶している。なお、その方は既に病気で亡くなったと聞いている。

私が考えるに、県にしても市にしても、クライングルテン事業と定住促進事業について縦割り行政が一つの弊害になっていて、県が本当に定住を進めたいということであれば、それにかかわる事業について統合できるようなやり方が必要じゃないかなと思っている。

次に、受け入れ態勢、利用者の状況についてだが、来年の3月で更新対象となる5年目、10年目を迎える方が約21名おり、また終了を申し出た方が3名いる。計25名が更新または終了となる。一方で、新規申し込みの方と再更新を希望する方を合わせて31名いる。そのため、2倍までとはならないが、それだけの人たちから希望があるということである。なお、今まで希望者が1倍を下ることはなかったもので、それだけ人気が高いのではないかなと思っている。

私の考えでは、ここは環境がよく、聞くところによると、クラブハウスが充実していて、常に皆さんの相談に乗っていることも一つの理由ではないかと、自負しているところである。



意見交換会の様子